

早生温州ミカンにおける腐敗防止薬剤の残効期間					
[要約] チオファネートメチル水和剤とイミノクタジン酢酸塩液剤の混用散布の場合、収穫20日前散布と収穫7日前散布は、 <u>緑かび病</u> による <u>果実腐敗</u> に対して同等の防除効果が得られる。					
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物病害	対象	果樹類	指導
平成13年度 長崎県果樹試験場業務報告					

[背景・ねらい]

収穫期に降雨量が多い年に薬剤の耐雨性等の問題から緑かび病を主体とした果実腐敗が多発する場合がある。そこで、早生温州ミカンにおける効果的な果実腐敗対策技術を確立するために、各薬剤の残効を明らかにすることで、効果的な薬剤の散布時期を検討する。

[成果の内容・特徴]

1. 緑かび病による果実腐敗に対しチオファネートメチル水和剤とイミノクタジン酢酸塩液剤の混用散布の場合、収穫20日前の散布は収穫7日前の散布と同等の高い防除効果である（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 他のベンズイミダゾール系薬剤であるベノミル水和剤については明らかでない。

表1 「興津早生」の緑かび病に対する各薬剤の防除効果（5m付傷）

供試薬剤		累積腐敗果率(%)			防除価
		7日後	14日後	21日後	
(収穫20日前散布)					
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍	5.7	29.5	41.9	56
チオファネートメチル水和剤	2000倍	3.6	29.1	31.8	66
チオファネートメチル水和剤	2000倍	0.9	2.7	7.2	92
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍				
チオファネートメチル水和剤	2000倍	0.9	12.7	16.4	83
イミクタジン酢酸塩液剤	3000倍				
(収穫7日前散布)					
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍	0.9	11.0	25.7	73
チオファネートメチル水和剤	2000倍	2.8	3.7	4.6	95
チオファネートメチル水和剤	2000倍	1.8	5.5	7.3	92
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍				
チオファネートメチル水和剤	2000倍	5.5	7.3	7.3	92
イミクタジン酢酸塩液剤	3000倍				
無散布		14.4	62.7	94.1	—

注 付傷処理は5mのコンクリートの坂を転がした。

表2 「興津早生」の緑かび病に対する各薬剤の防除効果（2m付傷）

供試薬剤		累積腐敗果率(%)			防除価
		7日後	14日後	21日後	
(収穫20日前散布)					
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍	0.9	19.3	31.2	62
チオファネートメチル水和剤	2000倍	3.6	31.5	34.2	59
チオファネートメチル水和剤	2000倍	3.8	9.4	11.3	86
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍				
チオファネートメチル水和剤	2000倍	5.5	12.7	14.5	82
イミクタジン酢酸塩液剤	3000倍				
(収穫7日前散布)					
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍	0.9	10.0	17.3	79
チオファネートメチル水和剤	2000倍	1.9	7.4	9.3	89
チオファネートメチル水和剤	2000倍	0.9	5.5	6.4	92
イミクタジン酢酸塩液剤	2000倍				
チオファネートメチル水和剤	2000倍	3.6	9.0	9.9	88
イミクタジン酢酸塩液剤	3000倍				
無散布		21.8	60.5	82.4	—

注 付傷処理は2mのコンクリートの坂を転がした。

[その他]

研究課題名：果実腐敗の発生要因の解明と効率的防除法の確立

予算区分：県単

研究期間：平成13年度（平11～15年）

研究担当者：小嶺正敬、早田栄一郎